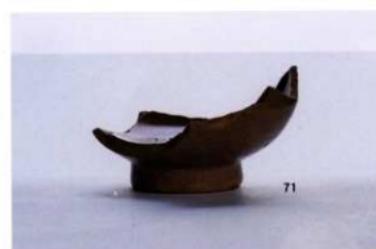
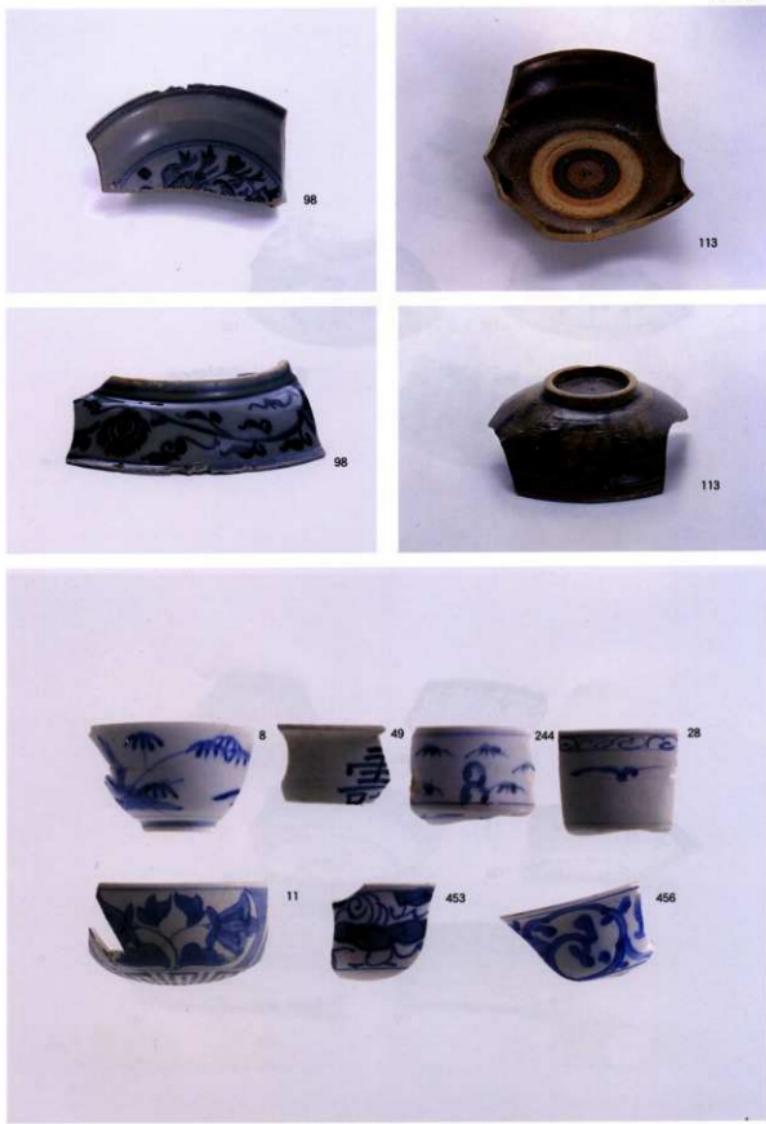


图版 31



I 地区出土遗物 (陶磁器・他)



I 地区出土遗物（陶磁器・他）

図版 33



I 地区出土遺物（磁器）



161



I 地区出土遗物 (陶磁器)



I 地区出土遺物（陶器・灯明具・鉢・その他）



191



192



251



198



197



191



192



251



198



197

I 地区出土遗物 (陶器・擂钵)

圖版 37



214

216

217

221

220

222

I 地区出土遗物 (陶磁器)



265



② I・II地区出土遺物（土製人形）

① I地区出土遺物（土製井戸枠）



271



565

③ I・II地区出土遺物（瓦・平瓦・軒平瓦）



568

④ I・II地区出土遺物（瓦・軒平瓦）



① I・II地区出土遺物（瓦・丸瓦）



② I地区出土遺物（瓦・軒丸瓦・軒浅瓦）

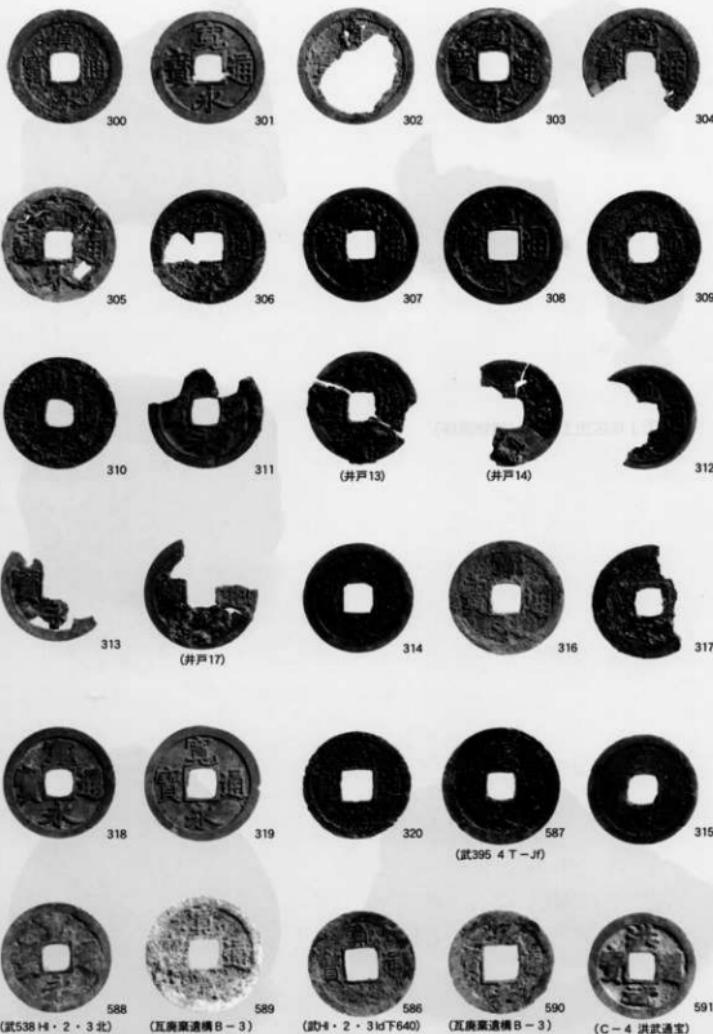


I · II 地区出土遺物（金属製品 1）

图版 41



I + II 地区出土遗物（金属製品 2）



() 内は注記番号

I・II地区出土遺物（錢貨）

図版 43



322



321



324

① I 地区出土遺物（鋳物関係）



323



327



328

② I 地区出土遺物（石製品 1）



329



330



334

I 地区出土遗物（石制品）

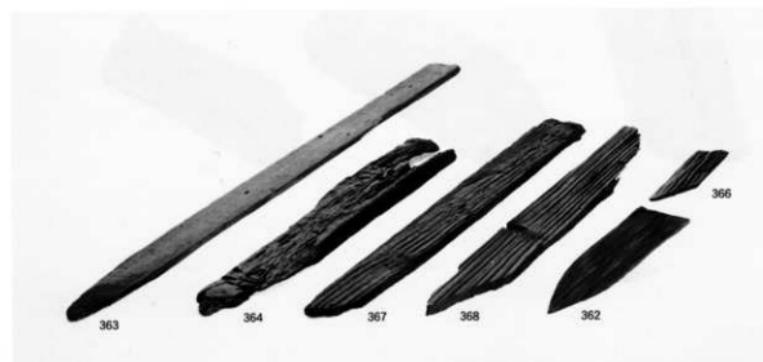


I 地区出土遺物（木製品・杭状製品）



I 地区出土遺物（木製品・棒状製品）

図版 47



I 地区出土遺物（木製品・板状製品）



① I 地区出土遺物（木製品・板状製品）

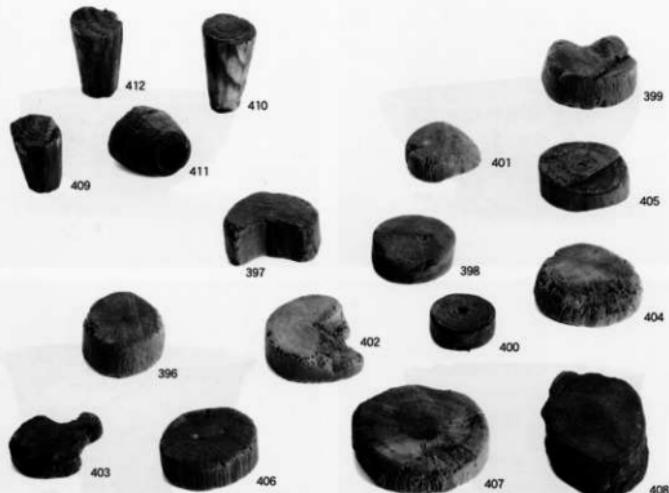


② I 地区出土遺物（木製品・底板・蓋）

图版 49



I 地区出土遗物 (木製品・板状製品・雑器)



① I 地区出土遺物（木製品・栓・破魔）



② I 地区出土遺物（木製品・下駄）



③ I 地区出土遺物（漆製品・植物繊維製品）

図版 51



II 地区出土遺物（磁器・碗）



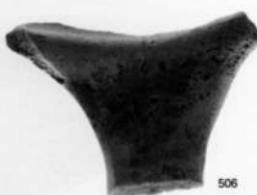
① I・II地区出土遺物（陶器・メンコ）



② II地区出土遺物（染付）

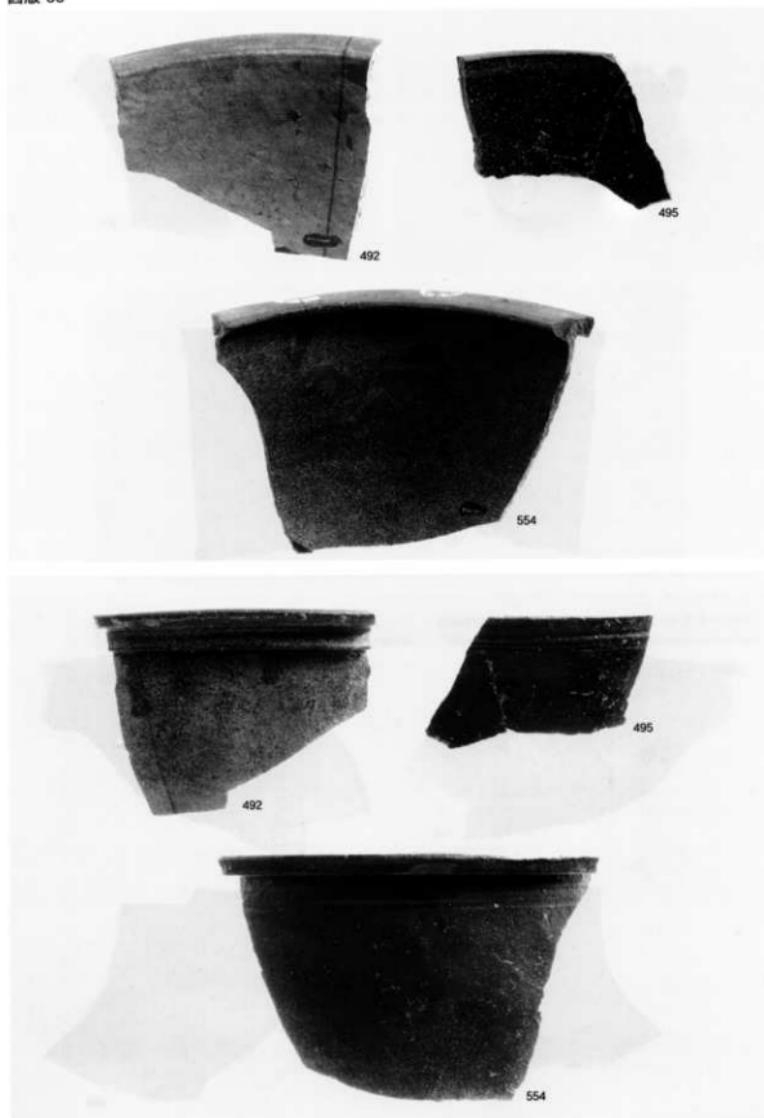


II 地区出土遺物（陶器・薩摩焼・人形）



II 地區出土遺物（陶器・擂鉢・片口・土師鍋把手）

图版 55



II 地区出土遺物（陶器・鉢）

图版 56



① II 地区出土遗物（土制品）



② II 地区出土遗物（石制品）



II 地区检出獸骨

梅 落 遺 跡

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経緯

日本鉄道建設公団九州新幹線建設局は、九州新幹線鹿児島ルート建設を計画し、事業予定区内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課（当時、平成8年4月以降文化財課）に照会した。それを見て文化課は、平成4年12月に予定地内の分布調査を実施し、21か所の遺跡を確認した。また、西鹿児島駅舎予定地内の武A・B・C遺跡については協議の結果、それぞれ確認調査、緊急発掘調査が進められた。

その後、分布調査に基づいて、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局、県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センターの三者で新幹線ルート内の各遺跡の取り扱いについて協議し、平成8年度から用地取得等条件が整った遺跡から確認調査、緊急発掘調査を実施することとなった。

平成8年度は、出水市鳥越平遺跡の確認調査と川内市大原野遺跡の確認調査を実施し、大原野遺跡で上下2枚の遺物包含層が確認され、着工前に緊急発掘調査が必要となつた。

平成9年度は、川内市大原野遺跡の緊急発掘調査を実施した後、川内市前畠遺跡の確認調査と部分的な緊急発掘調査を実施した。

平成10年度は、川内市前畠遺跡のうち前年度未調査部分の緊急発掘調査と、ほか12か所の遺跡について確認調査及び緊急発掘調査を実施した。

平成11年度は、伊集院町内の梅落遺跡ほか4遺跡と鹿児島市寿国寺跡の確認調査及び一部緊急発掘調査を実施した。

平成12年度は、前年度未調査であった部分と、新たに用地確保がなされた部分とについて緊急発掘調査を実施した。

平成13年度は、寿国寺跡・梅落遺跡の整理・報告書作成作業を県立埋蔵文化財センター内で実施した。

第2節 調査の組織

事業主体者 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局

調査主体者 鹿児島県教育委員会

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者 県立埋蔵文化財センター 所長 吉永 和人（平成11年度）

々 所長 井上 明文（平成12～13年度）

調査企画者 々 次長 黒木 友幸（平成11～13年度）

々 主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋（平成11年度）

々 主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一（平成12～13年度）

々 課長補佐兼第一調査係長 新東 晃一（平成11年度）

々 主任文化財主事兼課長 立神 次郎（平成12～13年度）

々 主任文化財主事兼第二調査係長 立神 次郎（平成11年度）

々 主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志（平成12～13年度）

県立埋蔵文化財センター		主任文化財主事 濑菜 久志 (平成11年度)
調査担当者	々	文化財主事 上之園建二 (平成11~13年度)
	々	文化財主事 八木澤一郎 (平成11~13年度)
	々	文化財研究員 馬籠 亮道 (平成12年度)
	々	文化財調査員 徳田有希乃 (平成12年度)
調査事務担当	々	総務係長 有村 貢 (平成11~12年度)
	々	総務係長 前田 昭信 (平成13年度)
	々	主査 今村孝一郎 (平成11~13年度)
	々	主事 潤池 佳子 (平成11~12年度)
	々	主事 池 珠美 (平成13年度)

第3節 調査の概要と調査経過

1 調査の概要

(1) 平成11年度の調査（梅落遺跡の確認調査）

5月6日から調査条件の整った伊集院町山ノ脇遺跡から確認調査を開始した。梅落遺跡の確認調査は、5月19日から着手した。未買収地や未撤去家屋があり、思うようなトレチ設定が困難であったものの、用地交渉が成立した部分から確認トレチを設定し、調査を実施した。途中、緊急度が高くなつた鹿児島市武二丁目に所在する寿国寺跡の確認調査を優先したため、梅落遺跡の調査を中断することとなつたが、6月17日までに、梅落遺跡内に遺物や遺構が存在することを確認したので、他の地点への確認調査に移行した。

(2) 平成12年度の調査（梅落遺跡の確認調査及び緊急発掘調査）

寿国寺跡の緊急発掘調査終了後、昨年度確認調査の未実施部分と、遺物包含層が確認された部分の緊急発掘調査を6月19日以降併行して実施した。確認調査で遺物等が確認され次第、出土状況に応じて範囲を拡大しながら調査を進めた。

その結果、縄文時代早期から近世までの遺物の出土が見られ、7月14日調査が完了した。

(3) 平成13年度の調査（整理・報告書作成作業）

県立埋蔵文化財センター内において、4月から寿国寺跡・梅落遺跡の整理・報告書作成作業を実施し、3月末埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

2 発掘調査の経過

発掘調査の経過は、日誌抄より略述する。

(1) 平成11年度の調査

a 梅落遺跡の確認調査 <5月19日~6月11日、6月14日~6月17日>

5月6日 梅落遺跡近くの山ノ脇遺跡より確認調査を開始する。

5月19日 梅落遺跡の確認調査を開始する。1T~4T掘り下げ。

遺物出土状況写真撮影。

~21日 1, 2, 4T掘り下げ。遺物取り上げ。

- ※ 緊急度が高いと判断された鹿児島市武二丁目に所在する寿国寺跡内の確認調査を優先したため、梅落遺跡の確認調査を中断することとなった。
- 6月14日 梅落遺跡確認調査再開。1, 2, 5, 6T掘り下げ。
- ～17日 土層断面図作成。各トレンチ埋め戻し。未買収地等の調査を残して終了

(2) 平成12年度の調査

- a 梅落遺跡の確認調査及び緊急発掘調査 <6月19日～7月14日>
- 6月19日 B-3～4, C～D-5～6, B～C-9～10区掘り下げ。
- ～28日 B～C-10～11区重機による表土除去。グリッド杭設定。
- 7月3日4地区掘り下げ。1号集石実測。遺物取り上げ。土層状況写真撮影。
- ～14日周辺地図作成。土層断面図作成。発掘地埋め戻し。

3 発掘調査及び報告書作成作業従事者

(1) 発掘調査作業従事者 (平成11年度、平成12年度)

有村克己 有村ひろみ 池田伊智子 今村良子 川路秋江 楠原操 佐伯イツ子 坂田重盛 坂元みどり 芝原ハルエ 末吉裕子 濑戸正文 武田未武 西ノブ子 田中真由美 永野里枝子 橋口晶子 花山尚子 原之園笑子 東絹子 東鶴子 平岡栄子 外園三千代 外園ミネ子 前村昭己 屋地暁子 山内正子 山口ふみ 増満みき子 益山ヨリ子 松岡三郎 弓削一枝 天野豊子 有馬幸子 今村妙子 吉富みどり 吉村より子 宇都妙子 仮屋郁夫 川路秋江 岸上正子 久保紀子 園田辰夫 尾堂佳代美 大内山秋子 高倉孝子 堀内朗子 松尾スミエ 南ノブ子 宮下巧 宮下マキ子 森田辰夫 山口節子 茶屋道良子 松山敬子 脇マス子 馬場園七百子

(2) 報告書作成作業従事者 (平成13年度)

川畑明子 木佐貫いく子 久保マリ子 竹下美和子 藤田ひとみ 堀口由美子 福重恵子 山之内美和子 山下道代

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

梅落遺跡が所在する伊集院町は、鹿児島県本土のほぼ中心にあたる鹿児島市の西隣に位置する。周囲を山地に囲まれ、北には重平山、南には矢筈岳・諸正岳を望む東西150m前後のシラス台地となっている。大部分は丘陵地帯で、シラスをはじめとしていろいろな火山噴出物が堆積している。特に伊集院町の西南部と東部には標高150m前後の台地が続き、中央部はこれらの諸丘陵に囲まれた標高70~80mの盆地帯となっている。町の中心部を北から南西部に流れる神之川の本流やその支流の野田川・下谷口川・長松川の流域には河岸段丘が形成され平地が開けている。その開けた平地部に市街地が形成されている。

梅落遺跡は、伊集院町のほぼ中央部、神之川により形成された河岸段丘上の標高約100m部分に位置する。

第2節 歴史的環境

伊集院町における先史時代の遺跡は、旧石器時代ナイフ形石器文化期の遺物や縄文時代早期前葉の竪穴住居跡や連穴土坑等が見つかった永迫平遺跡や、旧石器時代や縄文時代の良好な遺構・遺物が見つかった瀬戸頭遺跡や竹之山遺跡等の古い時代の遺跡が多く存在する。伊集院町には、古代には、租税の物品を収納し管理する倉庫（倉院または院）が置かれたといわれ、その町名の由来にもなっている。梅落遺跡の周辺には、諏訪免遺跡、西原・山ノ脇・石坂遺跡、上ノ平遺跡などがあり、縄文時代、古墳時代、古代、中世、近世など各時代の遺構・遺物が数多く見つかっている。新幹線建設に伴い発掘調査が実施された山ノ脇遺跡では大規模な掘立柱建物跡が数多く検出され、越州窯青磁や龍泉窯青磁など、古代から中世にかけての遺物が多く出土している。

ここ伊集院は、中世から近世にかけて、島津氏をはじめとして多くの有力者たちが各々の土地を所有し、また、その所有をめぐって、幾たびかの抗争を繰り広げていたようである。

第1表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代	備考（遺物他）
1	小竹下遺跡	桑畠字小竹下	古墳	土器片
2	上ノ平遺跡	下神殿四区	縄文、中世	縄文土器、石器、青磁、須恵器
3	宮田遺跡	下神殿字宮田	古墳	土器片
4	平等寺跡	麦生田字山下42	中世	人足窟・石塔
5	石坂遺跡	郡字石坂	縄文、古代	石器、土師器、須恵器、青磁
6	山ノ脇遺跡	郡字山ノ脇	縄文、中世	深浦式土器、掘立柱建物跡、青磁
7	西原遺跡	郡字西原	縄文、中世	石器、青磁、土師器、溝跡
8	諏訪免遺跡	郡字諏訪免	縄文	
9	後宮田遺跡	郡字後宮田	古代	土師器片
10	黒木田遺跡	郡字黒木田	古代	土師器片
11	郡遺跡	郡		石器、壺形土器、坏
12	一宇治城跡	大田	鎌倉初期	伊集院郡司紀四郎時清が館を構えたのが始まり
13	柳原遺跡	下谷口字柳原	古代、中世	土坑、溝、土師器、須恵器
14	下永迫A遺跡	下谷口字下永迫	古代、中世	土師器、須恵器
15	永迫平遺跡	下谷口字永迫	旧石器、縄文早期	竪穴住居跡、石器、土器片
16	猪鹿倉遺跡	猪鹿倉141-1		磨製石斧（大・小石斧）
17	鍋倉遺跡	清藤鍋倉	縄文時代	角形土器（前平式？）
18	碇ノ谷遺跡	下土橋	古代	



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

第Ⅲ章 調査概要

第1節 発掘調査の概要

平成11年度の調査は、用地交渉が成立した場所から確認トレーンチを設定し、実施した。その結果、縄文時代早期から中・近世の時期に至る、遺物・遺構の存在することが確認された。平成12年度の調査では、前年度に確認調査ができなかった部分の調査を進めつつ、遺物等の出土状況に応じて、範囲を拡張して、緊急発掘調査を実施した。

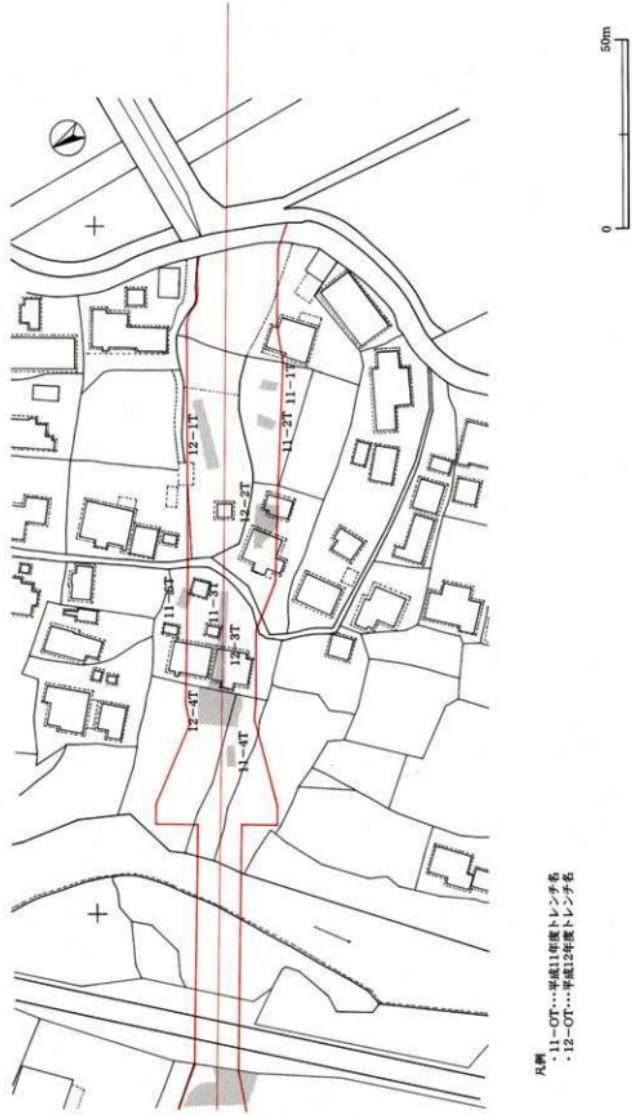
発掘調査は、対象区域に10mグリッドを設定して実施した。グリッドは調査区の最も東側をA-1区とし、北西へ1~12区、南西へA~D区の名称を付した。調査の結果、住宅建設などの造成工事による削平や、タケノコ栽培での擾乱が、遺物包含層にまで達しているところが多いことが明らかとなり、良好に遺物が残存しているところはあまり見られなかった。

第2節 層位

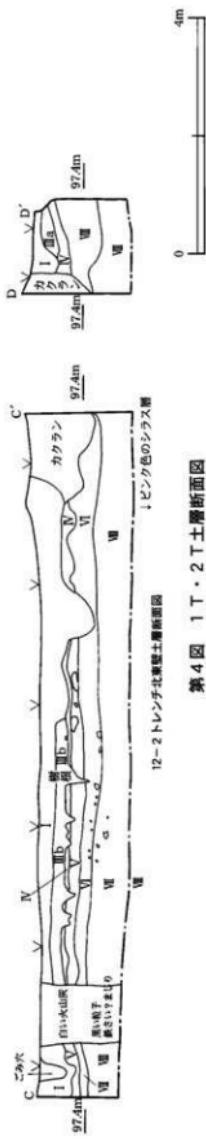
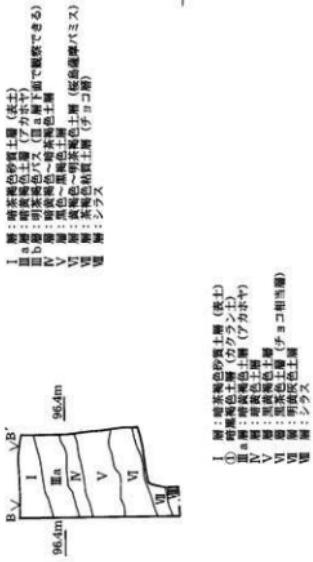
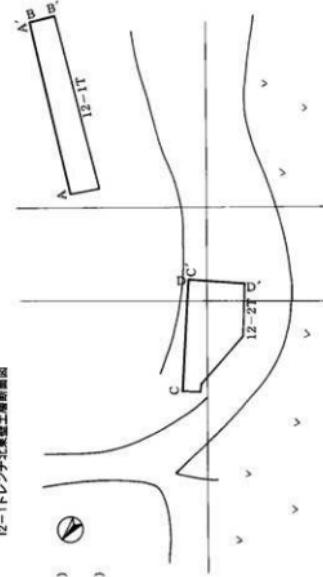
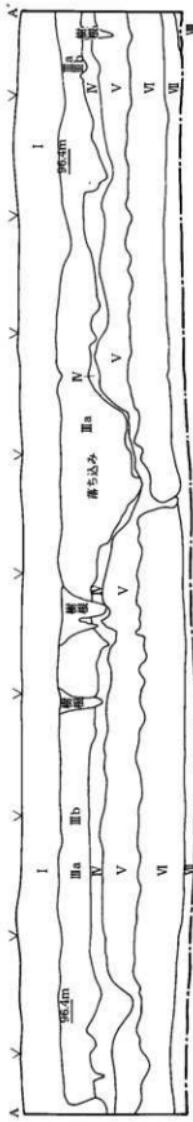
遺跡内の地層は、場所によって層序に若干の相違があるが、基本的には、層耕作土からⅧ層シラスまで第3図のように8層に区分できる。

I	表土。暗茶褐色の耕作土や造成土。
II	黒色腐植土。I層の下にすぐⅢ層が堆積しているところが多く、ほとんど観察できなかった。
III	暗黃白色火山灰土。鬼界カルデラ火山噴出物（アカホヤ火山灰）。下部に黄橙色軽石が見られる。
IV	暗黃褐色火山灰土。やや灰色を帯びた硬質の火山灰で、比較的細粒である。
V	黒褐色火山灰土。黒色で粘質が強く、径5mm前後の軽石が混じる。
VI	暗黃橙色火山灰土。
VII	暗茶褐色粘質火山灰土。極めて微粒で粘質が強い。
Ⅷ	シラス。

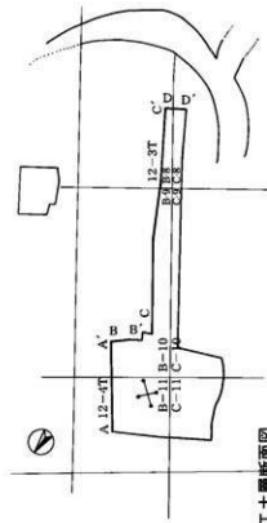
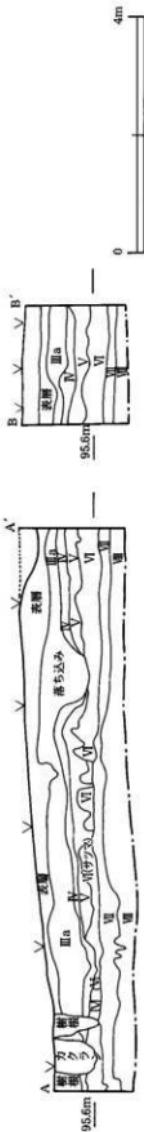
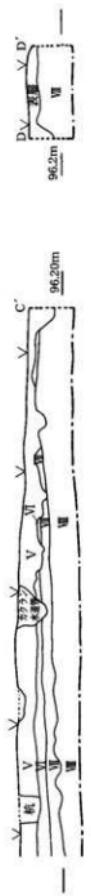
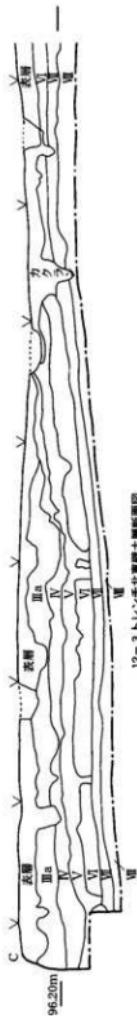
第2図 基本土層図



第3図 梅落遺跡調査区全体図



第4図 1T・2T土層断面図



第3節 発掘調査の成果

1 検出遺構（第6図、図版3）

集石遺構は、神之川河岸の頂上近くにあたる、B-11区で1基検出された。大きさは、長径70cm、短径50cmの楕円形状に礫が集中して検出され、さらに長径2.5m、短径2mの範囲に散らばった礫が広がっていた。掘り込みは検出できなかった。集石遺構を構成していた礫は100個以上あり、大きさはほとんどが拳大ほどであった。石材は安山岩が大部分で、熱を受けたとみられる礫もあった。

2 出土遺物（第7図、図版4）

1は第6トレントの第V層から出土した石器である。大きさは、長さ6.5cm×幅5.5cm×厚さ4.5cm重さ214gを測るものである。石材は安山岩である。色調は半面が明茶褐色、半面が灰色をなしている。灰色の面には、ひびや一部破碎痕がみられる。使用痕は幅の狭い面に叩き痕と、一部に磨かれた面がみられる。このことから、この遺物は敲石と磨石に使用されたものと考えられる。なお、この石器は集石の石として使用されたらしく、火を受けた痕跡がみられる。

2はB-10区第IV層から出土した土器である。部位は胴部にあたり、若干、外に開く器形である。外面には、幅の広い菱形（1.0×0.5cm）をした押型文を施す。内面には文様がみられず、籠状工具でナデ調整をしている。色調は、外面が暗茶褐色で内面が茶褐色である。胎土には石英・長石がみられ、質が良い。焼成は良く、硬質に仕上がっている。

3はB-4区第IV層から出土した土器である。部位は底部近くで丸味をもっている。文様はみられない。調整は外面が丁寧で、内面が荒い調整をしている。色調は、外面が赤褐色で内面が茶褐色である。胎土には石英・長石がみられ、質がよい。

4はB-11区第IIIb層から出土した土器である。部位は胴部で、若干、外に開く器形である。文様は縦位に施した結節縄文である。色調は、外側が明茶褐色を、中は黒茶褐色を呈している。胎土は石英・長石がみられ、質が良い。焼成は良い。

5はC-10区第IIIb層から出土した土器である。部位は胴部で、若干、上に開いている器形である。文様は縦位に施した結節縄文である。色調は、外側が黄茶褐色で内面が黒褐色を、中は褐色を呈している。胎土は石英・長石がみられ、質は良い。焼成も良い。5と同一個体の可能性がある。

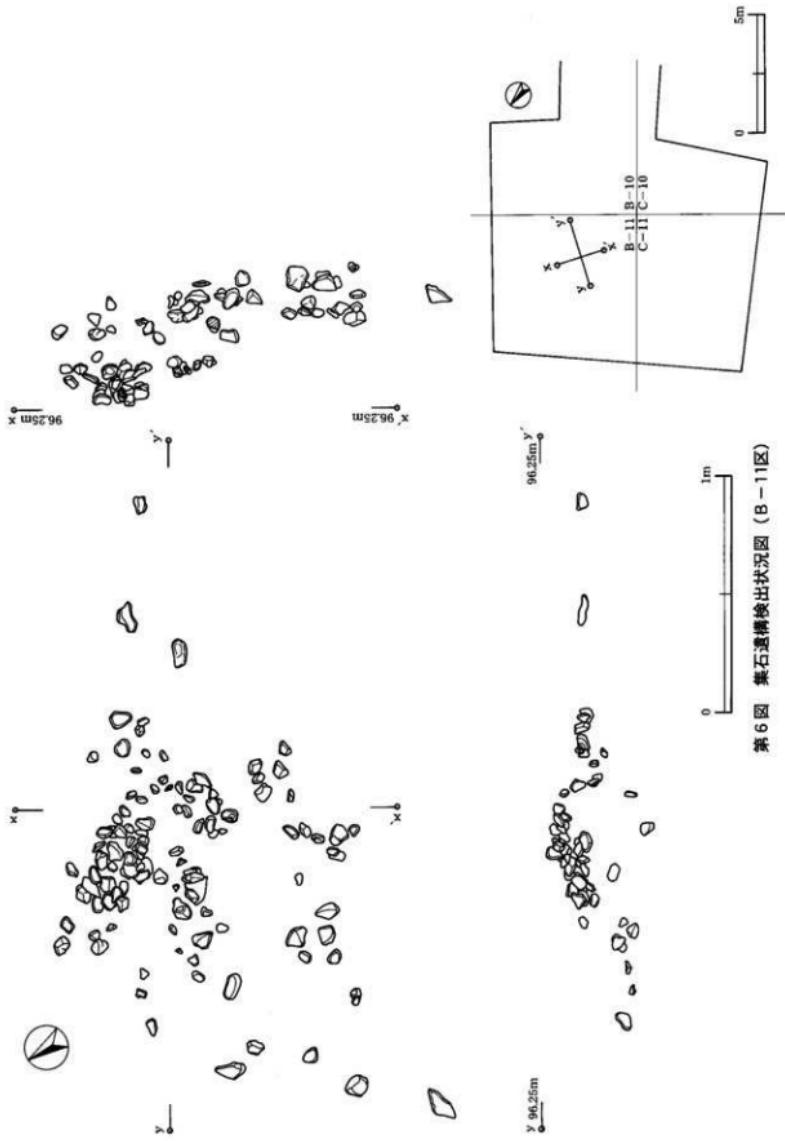
6はB-6区第III層から出土した石器である。大きさは、最大長5cm・最大幅8cm・最大厚1cmである。片面を3回位で大きく剥離して厚さを調整し、両縁を整え、鋭利な刃部は交互剥離を施している。石材は、灰色の不純物が混入している玻璃質安山岩と思われる。スクレイパーと考えられる。

7は第5トレントの表層から出土した陶器である。器形は径16.8cmの小型の甕である。形は内側に傾き、口縁部は蓋を受けるように大きく外側に閉じている。色調は中は赤茶褐色で、表面は灰釉がかかっており、焼成は良い。

8は第2トレント第II層から出土した近世の土師質土器である。器面はロクロ調整痕がみられる。色は黄白色で無施釉である。器形は蓋あるいは底部とも考えられる。折り返し反しがみられる。

9は第5トレントの表層から出土した、角張った高台をもつ青磁碗である。釉の色調は緑茶褐色で、高台内側以外にかかっている。高台内側の露胎は灰褐色で、胎土の質は細かい。時期は13世紀前半と思われる。

第6図 集石遺構発出状況図 (B-11区)



第2表 梅落遺跡出土遺物観察表

擇因番号	レイアウト番号	器種	出土地点	出土層位	注記番号	法 量			備考
						長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	
7	1	磨石・敲石	Tb	V	18	6.20	5.80	214.00	
	2	土器	B10	IV	20	(4.20)	0.90	13.31	押型文
	3	土器	B4	IV	23	(3.00)	1.00	7.82	縄文晩期
	4	土器	B11	IIIb	24	(3.00)	0.80	7.78	平柄式
	5	土器	C10	IIIb	26	(3.00)	0.80	14.48	平柄式
	6	スクレイバー	B6	III	22	5.00	7.80	37.69	
	7	土器	T5	表		(口)7.2	(4.40)	25.72	
	8	土器	2T	II	15	(口)6.1	(1.70)	2.73	
	9	土器	T5	表		(底)6.0	(2.45)	55.18	青磁

第4節 まとめ

今回、調査した梅落遺跡は小台地（河岸段丘）の頂上部分にあり、地形的に良好な地であったので期待しての発掘調査であった。その結果、遺物は出土するものの極めて少量であり、しかも宅地造成時に遺物包含層のほとんどが削平されたと考えられ、顕著な遺構の検出や遺物包含層の大きな広がりは確認できなかった。しかし、周辺の畠地から土器片や石礫などの石器類が見つかることから、周辺部に遺構・遺物包含層が存在する可能性は高いと考えられる。

1 遺構について

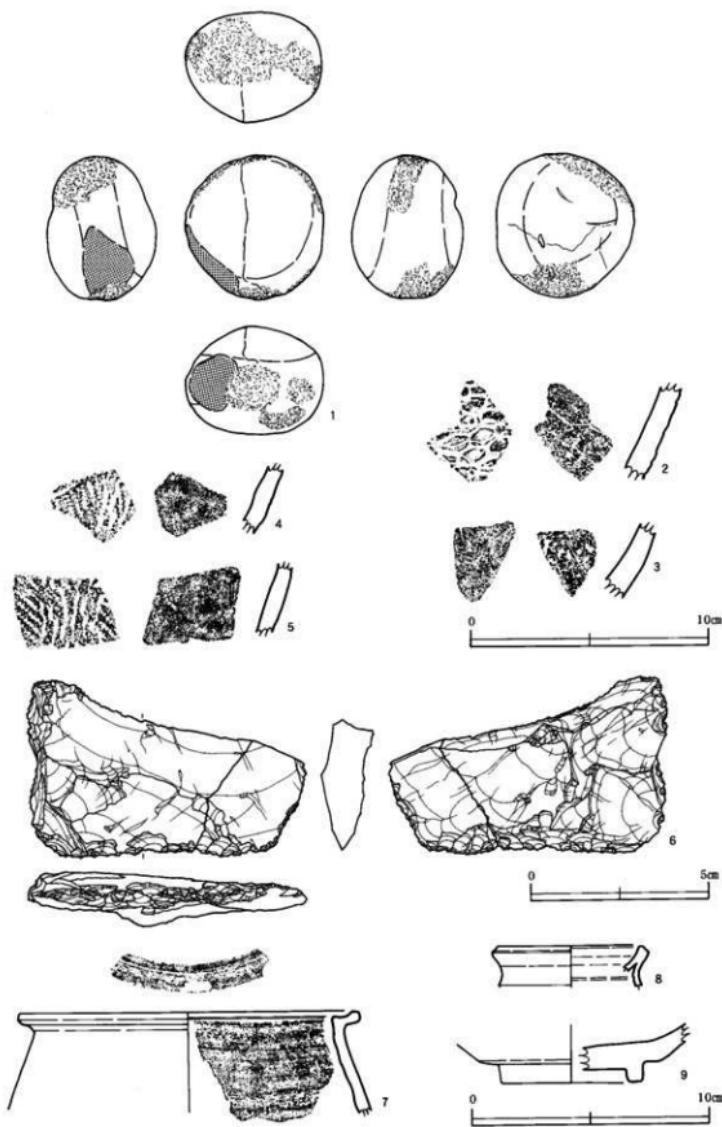
今回の調査では、集石遺構が1基のみ検出された。竹の根にからまつた状態で検出されたため、層位を確認することは困難で、所属時期は不明瞭である。周辺から、縄文時代早期の平柄式土器や押型文土器が出土していることから縄文時代早期の時期のものと考えられる。

2 遺物について

出土した遺物は、9点と点数は少なかったが、縄文時代早期、縄文時代晩期、中世、近世の様々な時代・時期の遺物が観察できた。

縄文時代の遺物は、平柄式土器、押型文土器、黒曜石製のスクレイバー、縄文晩期の時期に属する土器などが出土した。

中世の遺物は、青磁の底部が出土している。近隣の山ノ脇遺跡では同時期の遺物が多く出土していることから、両遺跡は密接な関係にあったと想定できよう。



第7図 梅落遺跡出土遺物 土器・石器・陶器



① 1 T 土层断面状况

远东土壤剖面 T 1 剖面



② 3 T 土层断面状况

圖版 2



① 2 T 西壁土層斷面狀況



② 3 T 西壁土層斷面狀況



③ 3 T 遺物出土狀況



④ 梅落遺跡完掘狀況



① 5 T 北壁土層斷面狀況



② 6 T 北壁土層斷面狀況



③ 6 T 西壁土層斷面狀況



④ 集石遺構檢出狀況 (B-11區)

圖版 4



梅落遺跡出土遺物（石器・土器・陶磁器）

あとがき

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴って実施した『寿国寺跡・梅落遺跡』発掘調査の報告書を新幹線開通に先立って、刊行することができました。

西鹿児島駅の西側に、江戸時代、わが薩摩藩において、最大規模であったという寿国寺に関係する門前池が眠っていました。石積みの見事さは、後生の私たちの目を驚かせました。また、その周囲から出土した遺物の数々は、当時の生活の様子を垣間見るに貴重な資料となるのではないでしょうか。

これらの貴重な資料の数々は、直接、発掘調査あるいは報告書作成作業に携わってくださった方々の努力と、日本鉄道建設公団をはじめ、多くの方々の協力の賜物であると思います。

限られた期間内での発掘調査及び報告書作成作業であったため、十分に研究・検討ができずに、不足する部分が多いと思いますが、この報告書の刊行が少しでも古代生活解明の一助となれば、幸いです。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(40)
九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IV

寿国寺跡・梅落遺跡

発行日 平成14年3月29日
発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-5652 鹿児島県姶良郡姶良町平松6252番地
☎ (0995) 65-8787
印刷所 濱島印刷株式会社
〒891-0122 鹿児島市南栄3丁目1番地
☎ (099) 268-6191